

日本原子力学会 第 137 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2023 年 4 月 17 日（月）15:00～17:40
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、池田委員、伊藤委員、金谷委員、小林委員、菅原委員、手柴委員、出町委員、中野委員、中村委員（委員 12 名中 12 名出席）
後藤特別委員、佐藤特別委員、山岡特別委員
4. 資 料：
 - 倫 137-1 前回議事録（案）
 - 倫 137-2-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 137-2-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 137-3-1 2023 年春の年会企画セッションの企画・準備について
 - 倫 137-3-2 2023 年春の年会企画セッション議事概要
 - 倫 137-3-3 2023 年春の年会企画セッション講演資料
 - 倫 137-3-4 2023 年春の年会企画セッションアンケート結果
 - 倫 137-3-5 2023 年春の年会企画セッションアンケート
 - 倫 137-4 2023 年秋の大会 倫理委員会企画セッションについて
 - 倫 137-5 研究機関の安全文化醸成活動について
 - 倫 137-6 （欠番）
 - 倫 137-7 ダイバーシティ推進委員会からの依頼資料
 - 倫 137-8-1-1 総会用 事業報告
 - 倫 137-8-1-2 総会用 事業計画

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 137-1 に基づき説明があり、特に異議なく了承された。

また、大場委員長から以下の補足があった。

- ・情報発信特別小委員会からの調査依頼については、事例集の発行についても追記し、提出済みである。
- ・金谷委員以外は 6 月で委員の任期終了となるため、個別に継続意志の確認を行い、全員が継続との意志を確認できた。感謝申し上げます。次回以降の理事会で承認手続きをしていただく。
- ・福家副委員長は、委員は継続されるが、都合により副委員長を退任したいとの申し出があり、委員長としてこれを了解し、7 月以降の後任の副委員長には手柴委員を指名した。
- ・大場委員長は理事に立候補することになり、当選した場合には、課題であった理事会との連携もし易くなるのではないかと考えている。他方、委員長を長く継続することは良い面/悪い面の両面があるが、今回は引き続き委員長を継続するのでよろしく願いしたい。

(2) 活動計画および役割分担について

福家副委員長から資料 137-2-1、137-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・次回技術倫理協議会は 4/24 開催の予定。
- ・次の秋の大会企画セッションの副担当（=2024 年春の年会の主担当）に伊藤委員からの立候補があり、お願いすることにした。

(3) 2023 年春の年会企画セッションについて

神谷幹事から資料 137-3-1 に基づき準備・実施の実績について、福家副委員長から資料 137-3-2 に基づき当日の議事概要について、金谷委員から資料 137-3-4 に基づきアンケート結果について説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・議事概要については、HP アップに向けて、現在深水様のレビュー中。
- ・アンケートは、参加者約 30 名中 21 名から回収でき、高い回収率であった。
- ・アンケートの自由記述にも一定の記載をいただいているが、講演テーマ等についての忌憚のない意見を更に求めるために、アンケートのやり方について工夫の余地があるのではないか。

(4) 2023 年秋の大会企画セッションについて

中野委員から資料 137-4 に基づき説明があった。主な議論は以下のとおりで、提案書の提出（5/15 期限）に向けて、主担当である中野委員主導のもと、メールベースで企画の具体化や必要な打診等を進めることとした。

- ・議論のたたき台として、テーマとしては、“心理的安全性”を切り口にしたテーマと、研究機関の安全文化の、二つの案を挙げた。
- ・開催場所が名古屋大学であることを踏まえ、倫理委 20 年の連載企画で学会誌へ投稿いただいた倫理に関わる名古屋の学識者に講演いただくのはどうか。投稿いただいた内容は公衆優先原則や専門職原則に関する“かたい”内容であるが、次の倫理規程改定に向けて、意義があると思う。また、世代間倫理あるいは未来倫理についても議論をして、次の倫理規程改定に繋げていければと思う。
- ・2019 年秋の大会で AI を取りあげたが、近年の状況も踏まえてあらためて AI 利用の品質保証なども候補としては考えられる。
- ・AI は、次の倫理規程改定でも論点になると思う。
- ・“心理的安全性”をキーワードとしてテーマに掲げるのはよいが、“心理的安全性”というのが必ずしも独立した新しい概念でもなく、事業者が取り組んでいる 10 トレイツにも埋め込まれていることだと思う。“心理的安全性”を前面に掲げて講師を探すことは難しいと思うので、講師選定は柔軟に考えたらよいと思う。主担当のやりたい企画でテーマを絞っていくことでよいのではないか。
- ・“心理的安全性”に関して、企業で実践している取組みの話を聞いた方が有意義ではないか。名古屋近傍の事業者の、原子力以外の実践事例も含めて、講演者を選定できないか。

(5) 研究機関の安全文化について

伊藤委員から資料 137-5 の紹介があった。本件については、再度委員会大でレビューすること

とし、本委員会終了後に、伊藤委員から5月連休明けの期限で依頼することとした。

(6) ダイバーシティ推進委員会からの依頼について

大場委員長から資料137-7に基づき説明があった。主な議論は以下のとおりで、ダイバーシティ推進委員会への回答文書については3役で案を作成し、その後、委員会大でメールベースでレビューすることとした。

- ・ 昨年の倫理委20年シンポジウムの開催を契機として若手連絡会（YGN）と倫理に関する勉強会を進めていくこととしており、その活動において、本件についても念頭においていくことがよいのではないかと。
- ・ 委員の拡大においては、当初の倫理規程策定から、現在に至るまでの時代の変化等を踏まえた倫理規程の変遷等も分かるような補助的な資料があるとよいのではないかと。
- ・ 過去の経験から、新しい委員が複数名入ったときに事例集の作成など大きなプロジェクトができたというのがある。
- ・ 委員の拡大に関しては、メーリングリストで呼びかける案もあるが、事業者の幹部の理解も得て個別にお願いすることがむしろ有効なのではないかと。
- ・ 女性とか若手とかに限らず、委員会の中で新しい視点を投げ掛けられる多様性が重要だと思う。

(7) その他

- ・ 神谷幹事から資料137-8-1-1及び137-8-1-2に基づき、学会事務局から依頼のあった総会報告向けの資料の説明があった。特に異議はなかった。

6. 次回：6月の開催として、別途調整することとした。

以上